

管理所レビュー VOL.13

(H29.10.26 水源林管理所)

10月11日(水)のボランティア活動は、秋晴れの中、予定どおりに間伐作業を実施することが出来ました。皆様、大変お疲れ様でした。

今回は今年度最後の活動になりますが、基本に忠実に、安全を最優先した作業を行い、無事故で来年度につなげていきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお祈いします。

それでは、安全活動のための水源林管理所の振返りなどをお知らせします。

1 69名のご参加、ありがとうございます！



今日も1日よろしくお祈いします。



秋の野花とススキ。



キレイな集積作業に感謝。

2 作業の様子とワンポイントアドバイス



ロープは玉切り前に外しましょう。



傾斜地でも、切り口の確認は十分に。



浮いた材の玉切りは要注意。



隣接班との作業距離は十分に！



集積材の上は気をつけて。



倒れきるまで、しっかり確認。



かかり木発生。



木回しを有効に使用しましょう。



見本のような切り株。

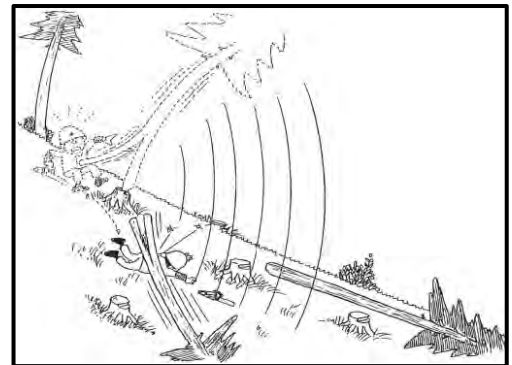
3 災害事例報告

「林材安全 10月号」に災害事例が掲載されましたので紹介します。

「道志水源林ボランティア活動」でも起こりえる事例ですので、安全作業のための参考にしてください。

(1) 災害の発生状況（推定）

沢側に重心が傾いている偏心木のスギをチェーンソーで受け口を切り、追い口を切り込んでいた時、突然幹が縦に裂け、被災者がはじき飛ばされ、倒れた被災者の上に伐倒木が倒れて下敷きとなり、死亡した。

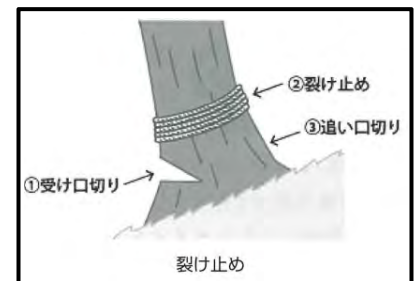


(2) 災害の発生原因

- ①伐倒前に偏心木をよく観察せずに、普通の伐倒方法で伐倒したこと。
- ②追い口切りの位置が低かったこと。
- ③偏心木を木の重心方向に伐倒したこと。
- ④指示を受ける作業にもかかわらず、独断で伐倒したこと。

(3) 災害の防止対策

- ①重心の方向に伐倒すると、倒れる速度も速くなり、加えて幹の裂けを誘発することになり、大変危険である。そのため、伐倒方向は重心の方向を避け、30度程度左右いずれかの方向とする。
- ②受け口は、予定した方向に確実に倒すため、深め（大きめ）につくる。
- ③追い口切りの高さは、通常的位置より高くする。
- ④やむを得ず、重心方向へ倒すときは、必要に応じて裂け止めをする。



「林材安全 10月号より一部抜粋」

4 インストラクター認定実習・・・下刈り、枝打ち編

前回の間伐実習に引き続き「道志の森インストラクター」への昇格候補者3名の認定実習として、下刈りと枝打ち作業が実施されました。

これからの安全活動には、「インストラクター」の活躍がますます重要になります。しっかりと技術と知識を身に付けた多くの指導者が増えていくよう、水道局でも出来る限りのサポートをしていきたいと思っておりますので、引き続き、ご協力よろしく申し上げます。

間伐実習と異なり、慣れない作業で大変だったと思います。大変お疲れ様でした。



鎌の研ぎ方と下刈り作業の実習。



枝打ち作業の実習。



お疲れ様でした。

※ 前回の管理所レビューは、Vo1. 12 でした。失礼しました。

※ 10月28日（土）は、曇りのち雨、最高気温 12 度、降水確率 60% の予報となっています。

★それでは10月28日、気をつけてお越しください。